

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2018年1月）

目 次

内 政	
◆スロバキア独立25周年記念式典	2
◆新党「Progressive Slovakia」の結党式	2
◆政党支持率調査結果	2
外 政	
◆パリーゼク副外相のOSCE安全保障協力フォーラム出席	3
◆フィツォ首相のV4首脳会合出席	3
社 会	
◆2017年の不法移民摘発件数	4
経 済	
◆経済省の2018年の優先事項	4
◆2017年の自動車生産実績	5
◆サムスン電子のヴォジェラディ工場が閉鎖へ	5
◆スロバキア中央銀行月報（1月）	6

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆スロバキア独立25周年記念式典（1日）

1日、キスカ大統領主催は、スロバキア独立25周年記念式典を開催し、スロバキアの発展に貢献した文化人及び学術関係者等25名に対し、勲章を授与した。叙勲された人物には、俳優の故クローネル氏（アカデミー外国語映画賞を受賞した「大通りの店」の主演俳優）の他、「プラハの春」時に活躍したチェコの歌手クビショヴァー氏も含まれている。

キスカ大統領は演説の中で、「スロバキア独立25周年に際し、スロバキアの発展のために並外れた貢献を行ってきた人々を表彰することは、非常に光栄である。市民としての共通の価値を共有し、創造性と精神の自由を擁護し、新たなアイデアを受け入れ、現代社会における難しいテーマに関する議論を尊重し、過去の真実を理解することは非常に重要なことである。今回表彰された人々が、一人一人の市民を強固な共同体として結びつけ、国家の持続的な発展に寄与したことにより、我々の生活は豊かで価値があるものとなった」と述べた。（当館注：2018年はスロバキア独立25周年の他、チェコスロバキア建国100周年及びプラハの春50周年にあたる。）

◆新党「Progressive Slovakia」の結党式（20日）

20日、ジリナ市において、新党「Progressive Slovakia」の結党式が行われた。党首に選出された実業家のシュチェフンコ氏は「我々は中道リベラルを志向する政治運動（political movement）である。左派や右派といった政治流派は今の時代にはそぐわない」と述べると共に、2020年の総選挙では20%の得票率を目指す、現実的な目標は約15%である旨強調した。現時点では党綱領を公表していないが、教育及び医療改革、地域格差の是正が党の優先事項になると見られる。

以前より、Progressive Slovakiaは最大与党「方向-社会民主主義（Smer-SD）」との協力の可能性を排除している。シュチェフンコ党首は「10年近く政権の座にいるSmerは、基本的には人々の生活水準を全く向上させていない」と述べた。Progressive Slovakiaは、2017年11月27日にスロバキア内務省により政党登録が認められた。党の初期メンバーは121人であるが、そのうち95%は政治経験がない。

◆政党支持率調査結果（31日）

世論調査機関Focusによる1月の政党支持率調査の結果は以下のとおり。連立与党SNSは支持率を回復させた。なお、新党Progressive Slovakiaの支持率は1.9%に留まっている。

政党	Focus	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	25.5%	28.3%
SaS（自由と連帯）	13.1%	12.1%
OLaNO-Nova（普通の人々・独立した人達 -新たな多数派）	11.4%	8.6%
Sme rodina（我々は家族）	9.0%	6.6%
SNS（スロバキア国民党）	8.6%	8.6%
LSNS（我々のスロバキア）	8.1%	8.0%
KDH（キリスト教民主運動）	7.4%	4.9%
Most-Hid（架け橋）	5.7%	6.5%

外 政

◆パリーゼク副外相のOSCE安全保障協力フォーラム出席（17日）

パリーゼク副外相は、OSCE安全保障協力フォーラムに出席し、「包摂（inclusion）、透明性（transparency）及び協力（cooperation）の原則が、スロバキアの優先事項である。グローバル化が進行した現在の世界において我々が直面している問題を解決するためには、OSCE全加盟国による協力が不可欠である」と述べた。また、東ウクライナ情勢に関し、「ドンバスにおける紛争を平和的に解決し住民が日常生活に戻ることを可能にする、実現可能な全ての政治的提案を支持している」と述べた。

スロバキアは、2018年第1四半期にOSCE安全保障協力フォーラムの議長国を務めており、2019年にはOSCE議長国に就任する。

◆フィツォ首相のV4首脳会合出席（26日）

フィツォ首相はブダペストで行われたV4首脳会合に出席し、欧州情勢、移民問題、リビアの国境管理支援に向けたV4共同出資等について話し合った。フィツォ首相は「V4は過去最低の失業率と高い経済成長を記録している。V4の繁栄がなければ、欧州は問題を抱えているはずである」と述べると共に、「いくつかのテーマにおいては異なる意見を有しているが、V4は間違いなく欧州を志向している」と述べた。

フィツォ首相は移民問題に関し、「全欧州が移民に怯えており、近い将来スロバキアにも移民問題の影響が及ぶことを危惧している。V4全ての国が、EUの難民強制割当て制度に反対しており、大多数の難民が経済移民であると認識している。今後、EUが決定を行う際は、全ての加盟国の賛成を基本とすべきである。スロバキアは安全な国であり、当国における密集したムスリム共同体の出現を拒否する」と述べた。

社 会

◆2017年の不法移民摘発件数（9日付TASR通信）

2017年、スロバキアにおいて2706人の不法移民が摘発された（前年比536人増）。そのうち、滞在許可の期限切れ等の理由で拘束されたのは2458人で、不法入国を試みた際に拘束されたのは248人であった。

ガシュパル警察長官は9日の記者会見の中で、「2017年の不法移民摘発件数は、スロバキアがシェンゲン圏に加盟して以来、最も多い数値となった」と述べた。中でも、セルビア人とウクライナ人の不法移民が増加しており、摘発された不法移民のうち75%を占めている。ウクライナ人に対する査免制度の導入及び逼迫しているスロバキアの労働市場の現状を踏まえると、不法移民の数は今後も増加すると見られる。

なお、2017年、警察は密入国斡旋に関与した疑いで107人を送検した。ガシュパル長官は「できるだけ多くのケースを効率的に捜査していきたい。犯罪組織の実態が解明されていることを嬉しく思う」と述べた。

経 済

◆経済省の2018年の優先事項（11日）

11日、ジガ経済相、ホヴァネツ副経済相及びフェレンツ副経済相は記者会見を開き、2018年の経済省の3つの優先事項（エネルギー部門改革、投資インセンティブ適用条件の変更、ビジネス環境の改善）を発表した。

ジガ経済相は「現在、西部スロバキア、中部スロバキア及び東部スロバキアの3つの電力供給企業が、再生可能エネルギーをそれぞれ購入しているが、2019年までに購入企業を1社のみに限定し、行政手続きを簡素化することにより、電力市場における再生可能エネルギー供給を安定させる」と述べるとともに、「スロバキアの法人向け電力価格は周辺諸国で最も高い。電力供給システム改革により、法人向け電力価格を減額することを検討している」と付言した。

ジガ経済相によると、2018年にスロバキアへの投資を計画している約100の企業のうち、3分の2の企業は（失業率が比較的高い）中部及び東部スロバキアへの投資を検討している。ジガ経済相は、「西スロバキアの企業に対する投資インセンティブは、高付加価値化及び研究開発に向けた投資に限定される。地域格差の是正が最優先事項である」と述べた。

ジガ経済相は「2018年の第1四半期中に、ビジネス環境の改善に向け新政策パッケージを公表する。近日中の閣議において、（企業向け）法規制の改善戦略について話し合われる」と述べた。

◆2017年の自動車生産実績（17日付プラウダ紙）

2017年、スロバキアにある3つの自動車組立工場（フォルクスワーゲン（VW）、プジョー・シトロエン（PSA）、起亜自動車（KIA））は、約103万台（推定値）の自動車を生産した。昨年（2016年）の生産台数（約104万台）を若干下回る結果となったが、各社が新型モデルの生産の準備を進めたことがその原因である。VWは、高級SUVのAudi Q8とTouaregの生産準備に取り組んでいる他、Porche Cayenneの生産ラインを独ライプツィヒからブラチスラバ工場に移転させた。

2017年のKIAジリナ工場の生産台数は33万5600台であり、前年比で1%減少した。KIA報道担当のバチェー氏は「2018年の生産台数は32万8000台になると予測している。最大の輸出先である英国市場の動向が不透明なこと、Kia Ceed第3世代の生産準備を進めていること、Sportageの生産ラインを改良することが、昨年よりも生産台数が低くなる理由である」と述べた。

2017年のPSAトルナバ工場の生産台数は33万5000台であり、前年比6%増加した。昨年生産された自動車の70%以上はCitroen C3新型モデルである。PSAは、Peugeot208新型モデルの生産を2018～2019年开始する他、電気自動車生産にも参入することが噂されている。

2018年からは、新たにジャガー・ランド・ローバー（JLR）もスロバキアでの生産を開始する。JLR報道担当のプルシュコ氏は「自動車工場の建設は計画通りに進んでおり、既に800人の従業員を雇用している」と述べた。

他方、スロバキアの自動車産業は、深刻な労働力不足に直面している。スロバキア自動車産業協会のシナイ会長は、「サプライヤーは、これまでよりも真剣に工場の国外移転を検討している。労働力不足問題を解決しなければ、スロバキア自動車産業の将来の発展が阻害される」と述べると共に、スロバキア自動車産業が抱えている5つの問題として、熟練労働者不足、デュアル・システムの遅れ、労働モビリティ向上のための支援不足、代替エネルギーに対する支援不足、研究開発の遅れを挙げた。

◆サムスン電子のヴォジェラディ工場が閉鎖へ（30日付経済新聞）

サムスン電子社はスロバキア西部ヴォジェラディ（Voderady）にある工場を閉鎖することになる。同社のコンプライアンス・マネージャーのネマシク氏は、「ヴォジェラディ工場とガランタ工場の製造拠点を統合し、より効率的な生産活動を行うことになる」と述べた。サムスン電子社は毎年2～3月に新製品の生産を開始していることから、今年春までにはヴォジェラディ工場が閉鎖され、

製造拠点がガラタ工場に移されるとみられる。また、パシュカ・ガラタ市長も「今年4月中には製造拠点がガラタ工場に一本化される見込みである」と述べた。

製造拠点統合の理由は、賃金上昇及び需要の減少に伴う業績悪化である。経済新聞の調べによると、昨年ガラタ工場では20の生産ラインが稼働していたが、今年に入ってから15のラインのみ稼働している。

ヴォジェラディ工場では約1500人の従業員が働いているが、そのうち3分の2は派遣社員である。サムスン社は、ヴォジェラディ工場の従業員に対し、同じ労働条件でガラタ工場での職を提供することになるが、派遣社員は対象外と見られている。サムスン電子社は、製造拠点統合に伴い、全体の従業員数を削減するかどうかについては言及しなかった。

◆スロバキア中央銀行月報（1月）

1 GDP

ユーロ圏の11月の鉱工業生産は、主にドイツの産業の成長に牽引され、著しく上昇した。スロバキアの実体経済活動に関する11月の主要な指標は、3ヶ月前比で好調を維持している。売上と輸出の伸び率が鈍化する一方、主に輸送機器の生産増加により、鉱工業生産の伸びは加速した。

2 労働市場

11月の雇用率は堅調を維持し、前年同期比で2.8%上昇、前月比で0.1%上昇した。11月の雇用の伸びは主に製造業に牽引され、エネルギー産業及び化学工業を除く全ての業種で上昇が見られた。

季節調整前の登録ベースでの失業率はスロバキア史上初めて6%を下回り、5.94%を示した。失業率における好ましい傾向は、積極的な労働市場政策（長期失業者及び求職者への職業訓練に対する支援）によって下支えされている。

11月の平均賃金は前年同期比で4.9%増となり、10月の4.0%から上昇した。賃金の伸びの回復は、鉱工業の主要部門及びサービス部門が牽引した。11月の平均賃金は1049.1ユーロであった。

3 物価

12月の消費者物価指数は予測どおり小幅に下落し、前年同期比で2.0%の上昇となった（11月は2.1%）。前月比では、物価水準は変動しなかった。12月の食料品価格は前年同期比で5.5%上昇し、2か月連続で5年ぶりの高水準に迫っている。その要因は、依然として鶏卵価格の上昇基調（供給

ショック)の持続によるものである。現在の傾向を踏まえると、2018年の消費者物価指数は2%をわずかに超えると予測されている。

4 貿易

11月の輸出は3ヶ月前比で0.7%増加した。主要部門の生産高が比較的堅調であるにも拘わらず、10月の成長を上回らなかった。11月の商品輸出は前年同期比で7.1%、輸入は3.2%それぞれ増加した。貿易黒字は3億1100万ユーロであった。

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

